

VR認知症体験セミナー ～認知症を知り地域で支える～ 研修事業報告書

平成30（2018）年12月

社会福祉法人 東北福社会
人財育成・定着検討委員会

本研修事業の意義と役割

これは、公益財団法人日本社会福祉弘済会が平成30年度社会福祉助成事業における研修事業のひとつとして採択したものです。

社会福祉法人東北福祉会は、継続実施しているプロジェクトのうち「人財育成・定着検討委員会」による公開講座「VR認知症体験会 with 認知症カフェ取組事例紹介」を助成事業研修会として行いました。（助成事業名称は「VR認知症体験セミナー～認知症を知り地域で支える～」）。

現在、認知症ケアに関する教育は、講義のほか体験学習を目的とした「演習」において、様々な技法を駆使したグループワークによる事例検討やロールプレイ、認知症当事者の話を直接見聞きするということが中心になっています。（介護福祉実習等は除く。）

その際、講師が最も苦心することは、どのようにして認知症の人本人の「主観」を“感じて”“知り”、“理解”しようとするか、ということです。認知症になったことがない私たち（他者）が、認知症の人の感覚と主観、考えを知り、理解することには大きなハードルが存在しています。私たちのほとんどは発熱・悪寒、食欲減退・便秘・下痢、頭痛、腹痛、腰痛などの体調不良やケガなどの経験があり、そのような状態に対して主観的に理解しやすい存在といえます。しかし、認知症のような精神・心理症状や行動障がいについては、私たちが理解するための自身の体験が乏しく当事者を主観的に理解することに困難が多くある状態です。つまり逆にいうと私たちは主観的動物であり自身の主観に支配されやすい存在であって、他者の主観を理解するためには相当な工夫が必要であるともいえます。認知症の人の生活支援は、当事者主体であることが最も重要であると認識されている一方、本人の認知症による生活障がいについては、介護サービス従事者が本人の視点から主観的に理解する方略が現時点では不足している状態であるといえます。

なお、当事者の主観を理解することの重要性については議論の余地がないものと考えています。

VR（Virtual Reality；バーチャル・リアリティ）＝仮想現実「コンピュータ・グラフィックス（CG）、アニメーション（アニメ）等により360度視野と視覚、聴覚、嗅覚、触覚等を刺激し、その環境の中で自分自身が様々に体験すること」をいいます（例：未知のイベント体験、オンラインゲーム）。AR（Augmented Reality；アグメンティッド・リアリティ）＝拡張現実「現実映像等の世界にCGやアニメを追加等した環境で自身が体験すること」をいいます（例：ポケモンGO[®]）。SR（Substitutional Reality（サブスティテューション・リアリティ）＝代替現実「現実映像に過去の映像を組み合わせることで体験すること」をいいます（例：PTSD治療プログラム）。MR（Mixed Reality；ミックスド・リアリティ）＝複合現実「現実映像を組み合わせるなどした仮想の環境において体験すること」をいいます（例：3Dホログラム）。いずれの場合も、自分自身が通常体験できないことを感覚的に何度も経験し、自分自身の視点から直感的に理解できるという点に特徴があります。このような手法は、私たち他者が認知症の人という当事者の感覚と感情、体験等を知り理解する方法の一つとして利用する価値があること、当事者に対する実践的ケアを検討するための研修の開発に役立つものと大いに期待しています。

認知症の人の生活支援のもう一つの方法として「認知症カフェ」があります。これは認知症や認知症の人の特性等に関する知識の普及・啓発と、相談支援や介護予防効果などの機能をもつ活動です。この研修会では当法人の事業拠点が直接関係する認知症カフェのうち、3つについてごく短時間ですが活動の紹介を行いました。認知症ケア専門職者と住民との協働による認知症カフェの実践に、課題を抱えている人たちの参考になるものと期待します。

この研修会は、認知症の人本人の主観に対応するケアの実践に役立つとともに、認知症ケアに従事する人のストレス緩和（“認知症のなぜ”がわかること）に効果があるとも考えて行いました。

社会福祉法人東北福祉会 人財育成・定着検討委員会
担当施設長 舟越 正博

目 次

I	研修事業	1
	1. プログラム	
	2. 認知症カフェ取組事例紹介	
	1) 午後の音楽 Café 【せんだんの杜】	
	2) まちの音楽カフェ 【せんだんの里】	
	3) オレンジカフェすまいる 【せんだんの館】	
	3. VR（バーチャル・リアリティ）認知症体験会	
II	研修アンケート調査集計結果	16
III	まとめ	27
	【資料集】	29
	・ 広報チラシ	
	・ 当日タイトル	
	・ アンケート調査票	
	・ 新聞掲載記事（Web 版から）	

プログラム

時間	内容
13:00～	・受付
13:30～	・オリエンテーション
13:35～	・主催者挨拶（社会福祉法人東北福祉会せんだんの里：総合施設長 舟越 正博）
13:40～	○ 第Ⅰ部 「東北福祉会 認知症カフェの実践報告」 ・午後の音楽 Café （せんだんの杜：阿部 和也） ・まちの音楽カフェ♪ （せんだんの里：菅間 雅子） ・オレンジカフェすまいる（せんだんの館：斗米 一志）
14:15～	・休憩
14:30～	○ 第Ⅱ部 「VR 認知症体験会」 ・講師紹介（株式会社シルバーウッド VR 事業部：黒田 麻衣子 様） ・目的・目標の説明
14:35～	① グループ自己紹介 ② 「認知症の人」に対して自分がいま持っているイメージを書いてもらう。認知症体験後に振り返ってもらうことを伝える。 ③ VR 認知症プロジェクトの簡単な説明。
14:45～	① 1 話目（視空間失認）の VR を見てもらう。 ② 体験後、思いや感情を書いてもらう。 ③ ストーリー解説。
15:00～	① 2 話目（見当識障害）の VR を見てもらう。 ② 体験後、思いや感情を書いてもらう。 ③ ストーリー解説。
15:10～	・VR 認知症プロジェクトの想いの共有
15:20～	① 3 話目（レビー小体型認知症）の VR を見てもらう。 ② 体験後の思いや感情を書いてもらう。 ③ ストーリー解説。
15:40～	○ 本日の体験を踏まえて ① 新たな気づきはありましたか？ ② あなたが今日からできることはなんですか？ ③ 認知症に対する今のイメージを書き出してください。（体験前と変化があったか確認）
16:00	○ VR 体験会終了 ・アンケート記入
～16:10	・閉会挨拶（社会福祉法人東北福祉会人財育成・定着検討委員会：委員長 松本 久） ・終了

せんだんの杜 ♪ 認知症カフェ
「午後の音楽café」
～つながろう・深めよう・ものわすれを知ろう～

社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜
阿部 和也

○せんだんの杜について

- 所在地:宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘7丁目141-9
高齢者:特別養護老人ホーム「リベラ荘」
ケアハウス「フェリコ館」
せんだんの杜中山通所介護事業所 など
児 童:せんだんの杜保育園
児童自立援助ホーム「せんだんの家」
仙台市障がい児放課後等デイサービス など



詳しくはホームページを
ご覧ください!

○「午後の音楽café」へようこそ！（カフェの概要 ①）

- 開 始:平成27年9月
- 運営組織:吉成学区社会福祉協議会
ボラ・ネット「杜の丘」(地域のボランティア団体)
国見ヶ丘地域包括支援センター(仙台市委託事業)
せんだんの杜
- 開催場所:特別養護老人ホーム「リベラ荘」1階 旧デイサービスフロアーにて
- 運営費用:それぞれの団体の自己資金(参加費は無料、今年度は助成金等なし)
- 開催頻度:毎月1回定期開催(火曜日・木曜日の交互開催)
- 参 加 者:どなたでも(当事者、介護家族、地域住民、事業者など)
- 専 門 職:社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、看護師、認知症介護指導者など

○「午後の音楽café」へようこそ！（カフェの概要 ②）

カフェの内容は・・・

- 13:30～13:50 ミニコンサート(第1部)
- 13:55～14:25 ものわすれの話
- 14:25～15:00 フリートーク
- 15:00～15:20 ミニコンサート(第2部)
- 常設の相談・情報コーナーあり



申し込み不要です
途中の出入りは自由です
司会者はいません



○「午後の音楽café」へようこそ！（カフェの概要 ③）

会場はこんな雰囲気です…



○「午後の音楽café」へようこそ！（カフェの概要 ④）

相談・情報コーナーもあります…



○大切になっていること

- 施設・地域の計4団体で共催。当初から丁寧に打ち合わせを重ねて運営しています。施設と地域とが「一緒に」取り組むことを大切にしています。
- 早期に相談につながるように、「テーブル担当」が各テーブルに座り、何気ない会話のなかで、相談のきっかけになるようにしています。
- しかし、実際には相談は一握りです。「いつか必要になったら、ここに来ればいいんだ」と思ってもらえればいいのかな、と考えています。
- 介護している人たち同士でおしゃべりをして、「また来月」とがんばるきっかけにもなっているようです。
- 地域からの参加者も多いです。(100名を超すことも多いです。)もの忘れや認知症のことを知り、気軽に話題にできる雰囲気です。
- 毎月一緒に楽しむことを繰り返すうちに、助け合い、気づかい合うつながりが広がったり、深まったりしているようです。それが、「認知症になっても、暮らし続けられる地域」への一歩になっていると思います。

○「午後の音楽café」の詳しい内容は…

- せんだんの社のホームページをご覧ください！

歴代のカフェの内容はこちらで検索してみてください♪

👉 [せんだんの社「午後の音楽café」\(認知症カフェ\)へようこそ!](https://www.sendan.or.jp)

<https://www.sendan.or.jp>





認知症カフェ 取組事例

まちの音楽カフェ ♪

～地域に認知症カフェが定着するまでの道のり～



社会福祉法人 東北福祉会 せんだんの里
菅間 雅子

なぜ、認知症カフェだったのか？

『認知症になっても住み慣れた地域で

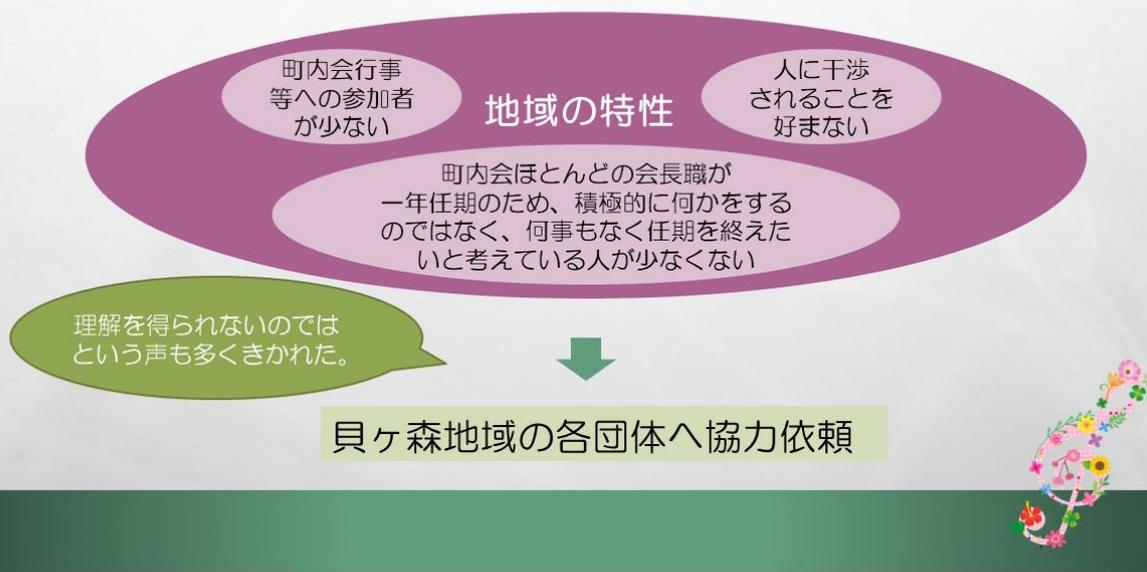
安心して住み続けたい。』

そのために、何が必要なのか・・・

認知症になっても安心して暮らせる地域を作ろう！！
その第一歩が、貝ヶ森地域に認知症カフェをオープン
させることでした。



まちの音楽カフェ ♪ 開店準備



まちの音楽カフェ ♪ 運営

下記団体と協働での開催が決定

- 貝ヶ森地区社会福祉協議会
- 国見地区民生委員児童委員協議会
- 貝ヶ森地区連合町内会
- 貝ヶ森赤十字奉仕団
- 国見地域包括支援センター
- 社会福祉法人 東北福祉会 せんだんの里





まちの音楽カフェ♪開店

認知症を学び、専門職や地域の方と出会う場所として



大切にしていること

日 時：平成27年12月15日（火）開店
 ▷月1回 13時30分～15時頃まで
 場 所：貝ヶ森市民センター 会議室
 参加費：無料
 申込み：不要
 内 容：認知症にまつわる講話等
 さまざまな楽器やうたによる生演奏
 会話を楽しむカフェタイム



- お客様がゆっくりくつろいでお話ができる空間
- 誰もが気軽に来れる、また来たいと思える、雰囲気作り
- 悩みや困りごとも、ここに来れば話を聞いてくれる人がいる
- 認知症について、知ってもらう場所

まちの音楽カフェ♪変化



平成27年度 認知症カフェへの理解が得られないのではと始まったカフェも、予想以上の反響で、多くの方がリピーターに

平成28年度 スタッフとして共に活動している民生委員・福祉委員さんと、意見交換ができる関係性が少しずつ築けるように

平成29年度 貝ヶ森地域に“まちの音楽カフェ♪”の必要性を、各団体メンバーも感じ始め、定期ミーティングではカフェをよりよくするためにはどうしたらよいか等の積極的な意見交換が行われるように

まちの音楽カフェ♪未来



平成30年度 新たな取り組み

- 近郊地域への送迎サービス
 - ▷参加したいが歩いての参加が難しい方（車いすの方等）
 - ▷外出の機会が減り自宅にひきこもりがちな方
 - ▷認知症を患っている方やそのご家族の方
 - ▷介護を受けている方や介護をされている方
- 開始を30分早め、プログラムを“講話⇒音楽”から“音楽⇒講話⇒音楽”とくつろぎながら合間のカフェタイムを楽しめる構成へ変更

3年前に始まった認知症になっても安心して暮らせる地域作りは、
一歩一歩着実に地域の皆さんと一緒に進んでいます。



認知症カフェで地域を元気に！！

ご清聴ありがとうございました。

オレンジカフェ



主 催：双葉ヶ丘地域包括支援センター／せんだんの館

社会福祉法人東北福祉会せんだんの館 斗米一志

コンセプト

大事にしていること

すまいるでは、様々な人との“つながり”と“交流”を大切にしています。認知症について、**どなたでも**ゆっくりと気軽にお話しができる居場所でありたいと考えています。

「最近物忘れが気になる」「介護や認知症のことについて知りたい」など、お茶を飲みながらホッと肩の力を抜いて一緒に認知症について考えてみませんか？

専門のスタッフがお待ちしております。

年間スケジュール

日程	内容
4月	認知症って何だろう？
5月	在宅生活を継続するための介護保険サービス
6月	お金のお話し
7月	栄養と水分
8月	認知症への気づき
9月	お坊さんからのお話し
10月	体すこやか、心すっきり体操
11月	知っててよかった！介護保険サービスの使い方
12月	助けられ上手になろう！
1月	知っていますか？「在宅医療」
2月	認知症を知る
3月	認知症と共に生きる家族のお話し



栄養と水分～暑い夏を乗りきるために～



寝たきり予防！健康づくり！



お坊さんからのお話し



CAFÉ HAMAYU

～コーヒー&スイーツ～



～ピザを楽しむ～



参加者の感想

- 和やかで良かった。
- 本日頂いた資料はとてもためになりそうです。家に帰って読み返してみたいと思います。
- これからの自分や家族のためになるお話が聞いてよかったです。今後も色々な方とお話することを楽しみにしています。
- 今日は久しぶりに楽しい一時を過ごせて、とても良い一日となりました。これからも是非参加したいと思います。
- 認知症は怖いことだと思っていたけど、少し安心することができました。

お気軽にお問い合わせください。
皆様のお越しをお待ちしております。





VR認知症プロジェクト ～認知症の一人称体験～

「認知症」「認知症の人」に対して、
どのようなイメージを持っていますか？

体験前	体験後
-----	-----

体験を通じて

どんな気持ちになりましたか？

1話目:「私をどうするのですか？」

2話目:「ここはどこですか？」

3話目:「ビデオ小体病 幻視編」

どうしてもらえたらうれしいですか？

1話目:「私をどうするのですか？」

2話目:「ここはどこですか？」

3話目:「ビデオ小体病 幻視編」

全ての体験終了後に記入ください

新たに気づかれたことはありましたか？

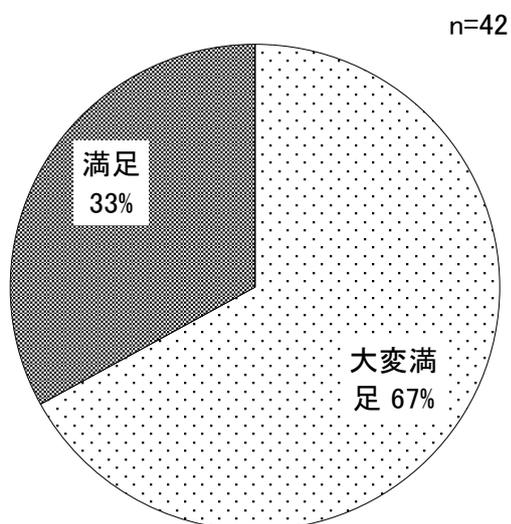
あなたが今日から出来ることはありますか？



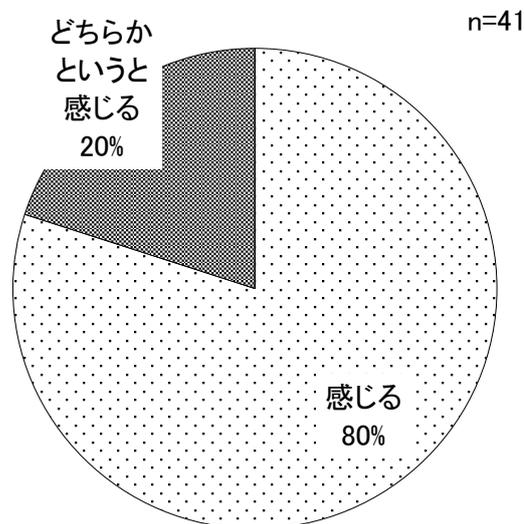
【VR認知症体験会】単独アンケート調査集計結果(抜粋)

アンケート調査対象者：44名（回収率：98%）

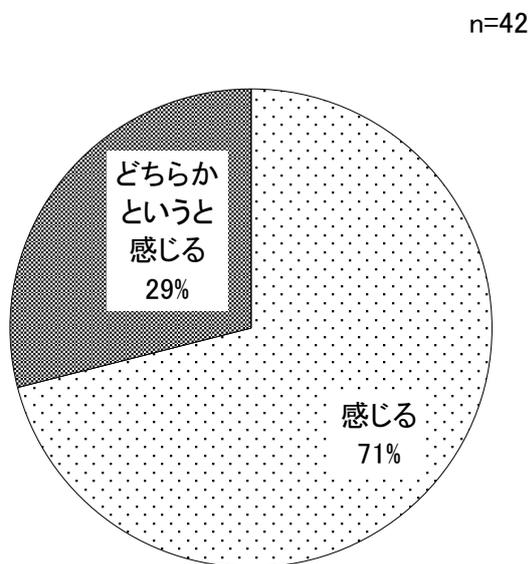
1. (VR認知症体験の)満足度



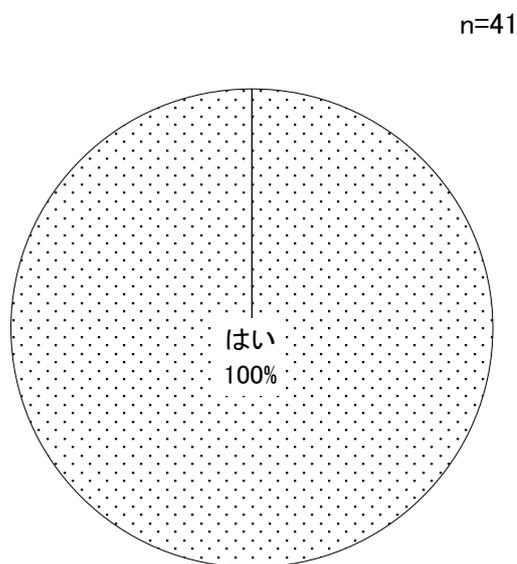
2. VRの視聴によって、認知症の人に対する「理解」は進んだと思うか？



3. VRの視聴によって、認知症の人の介護の「心理的負担度」は和らぐと感じたか？

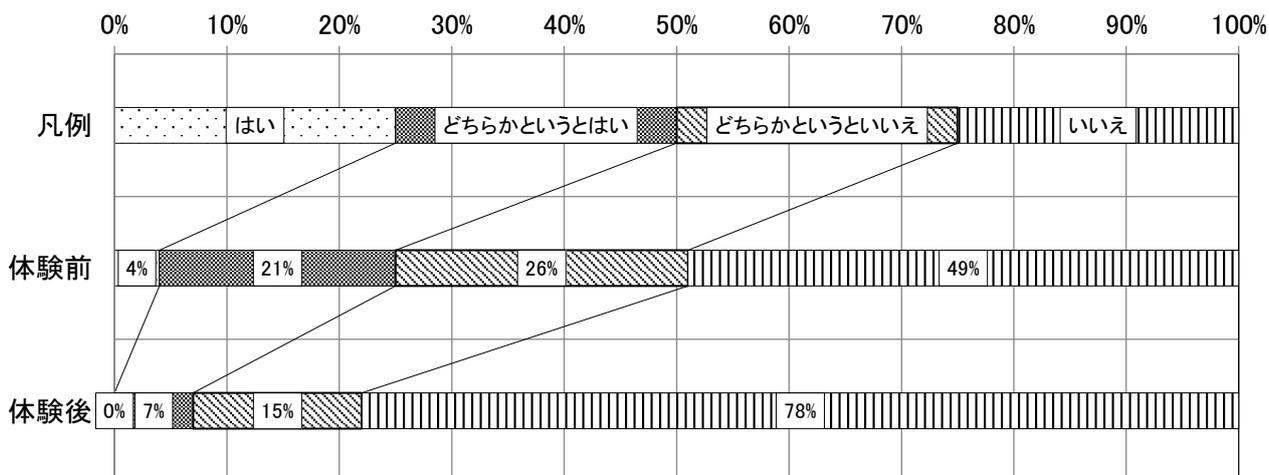


4. VR認知症体験プログラムを他の人にも「薦めたい」と思うか？

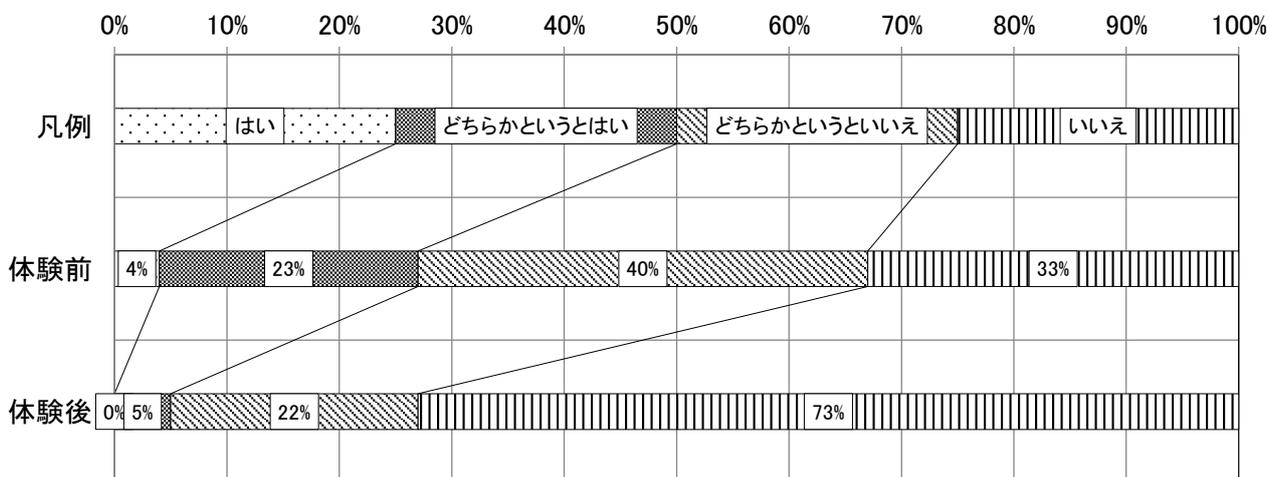


● VR認知症体験【前】と【後】の比較

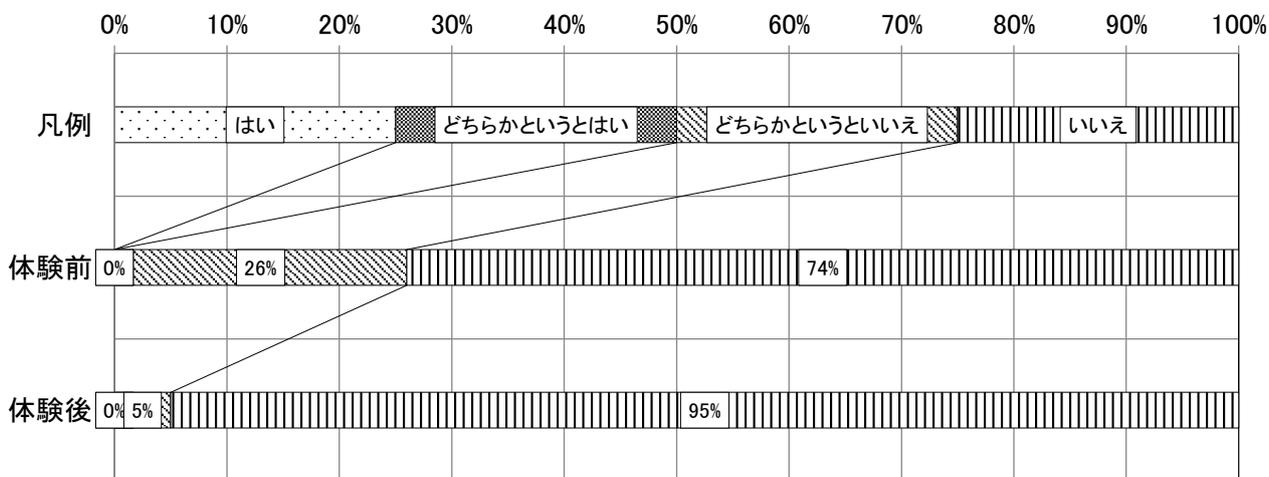
1. 認知症のある人が怖い



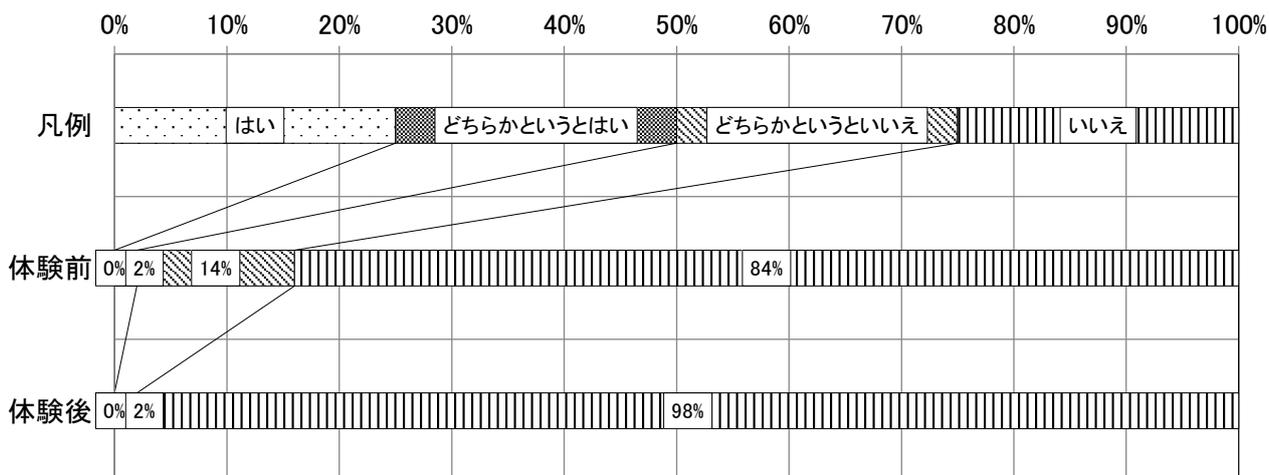
2. 認知症のある人にどう接していいかわからない



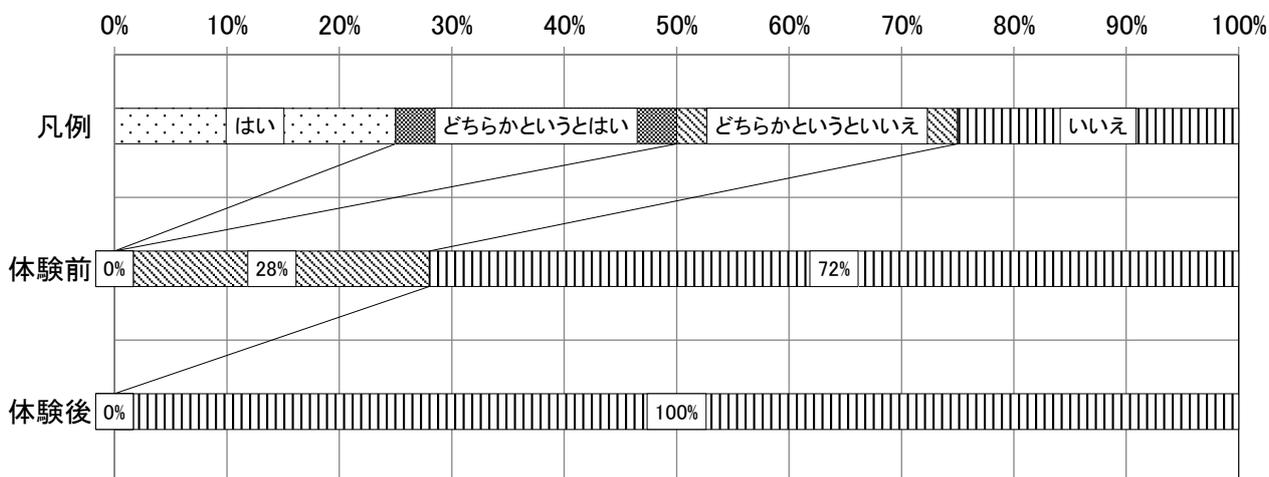
3. 認知症のある人が現実にはありえない様なことを話したら、根気強く訂正してあげるのがよい



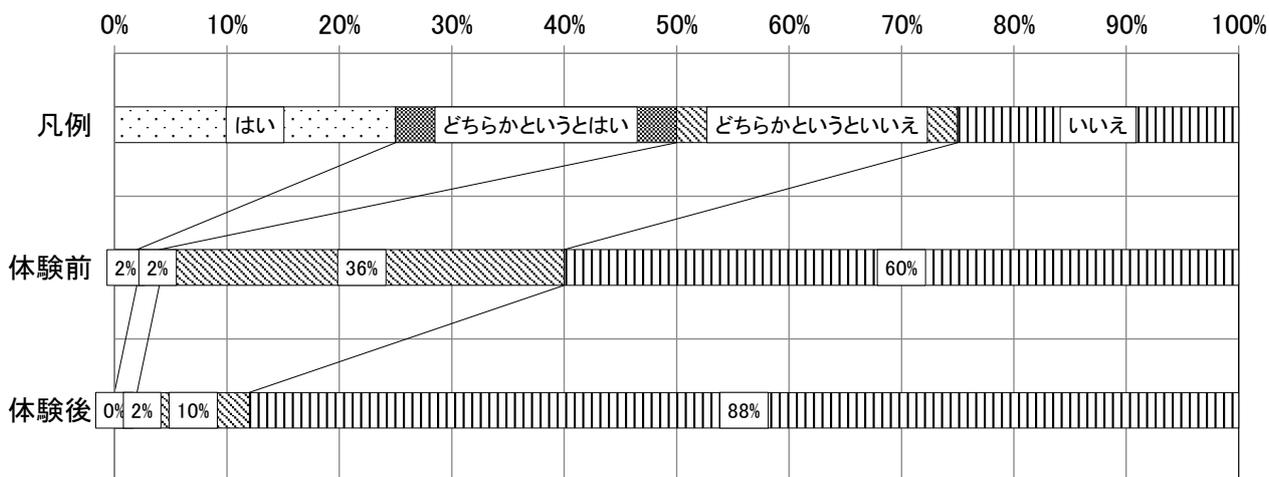
4. 何度も同じことを繰り返し聞き返ってくる場合は、繰り返し聞いているという事を自覚させてあげたほうがよい



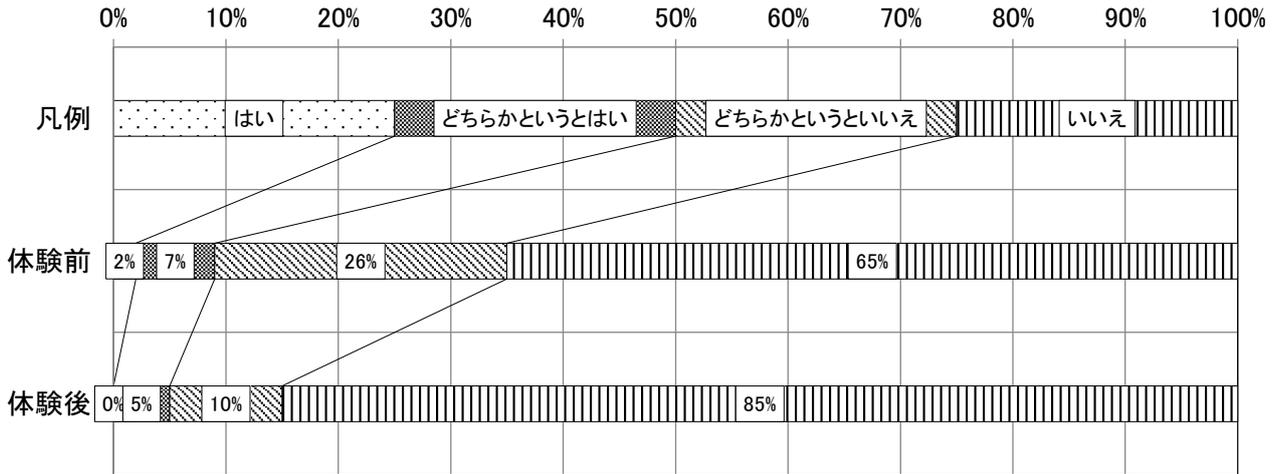
5. 間違いは一つ一つ直す方がよい



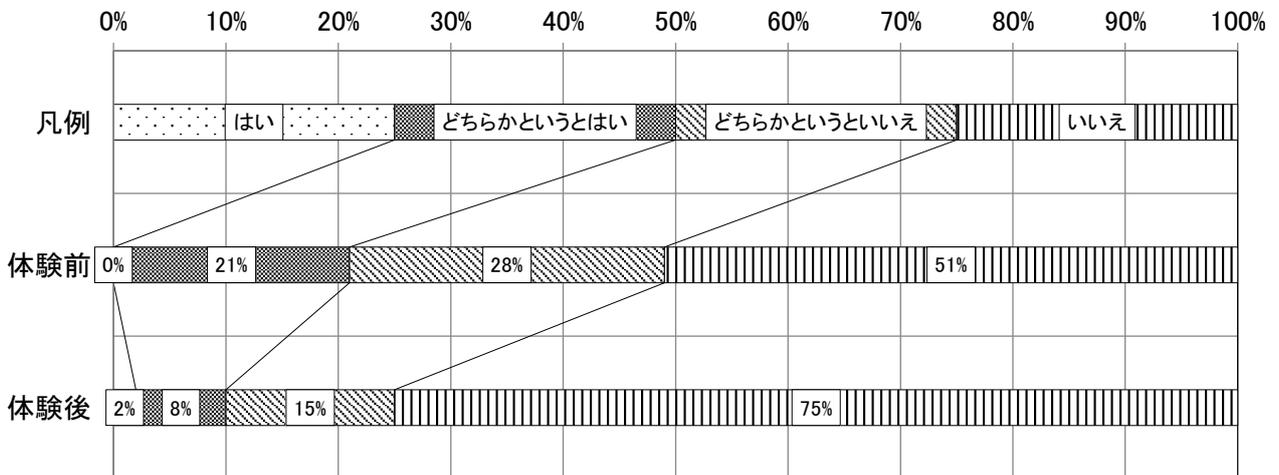
6. プライバシー保護のために、近所の人には認知症であることを知らせない方がよい



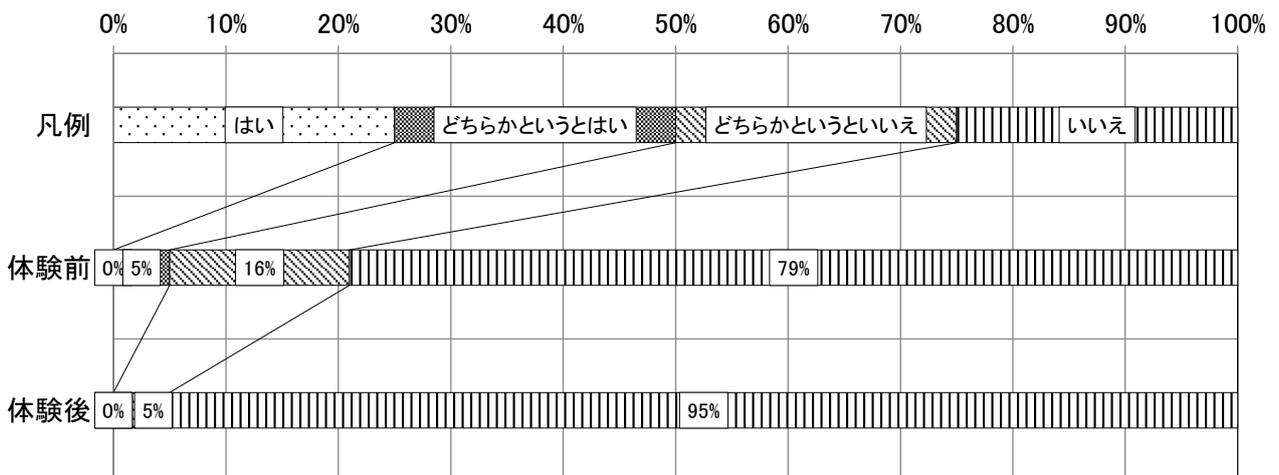
7. 認知症は、感動したりうれしいときに感情を表現することができなくなってしまう病気だ



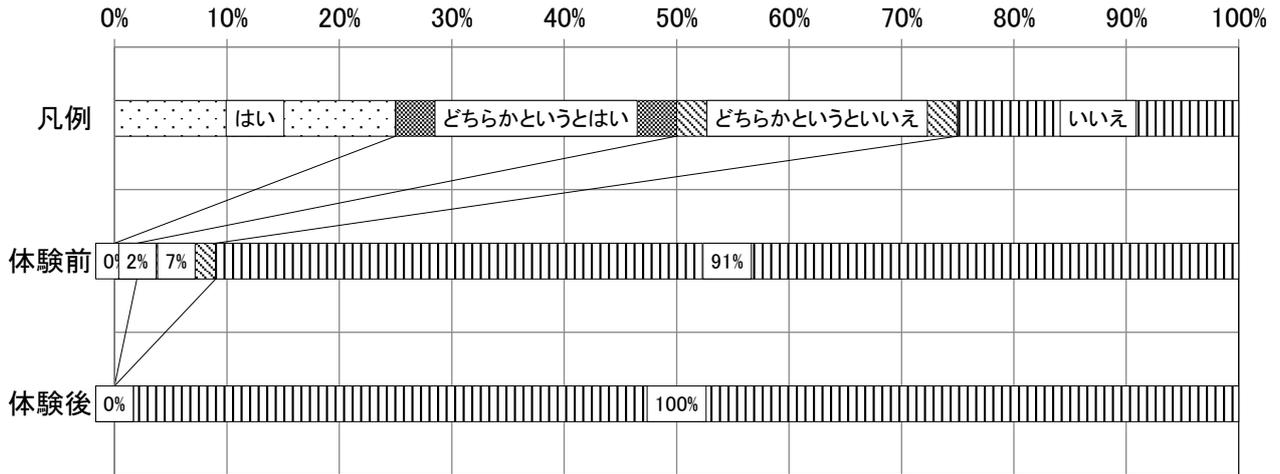
8. 認知症は、自分が何をしたいのか全くわからなくなってしまう病気だ



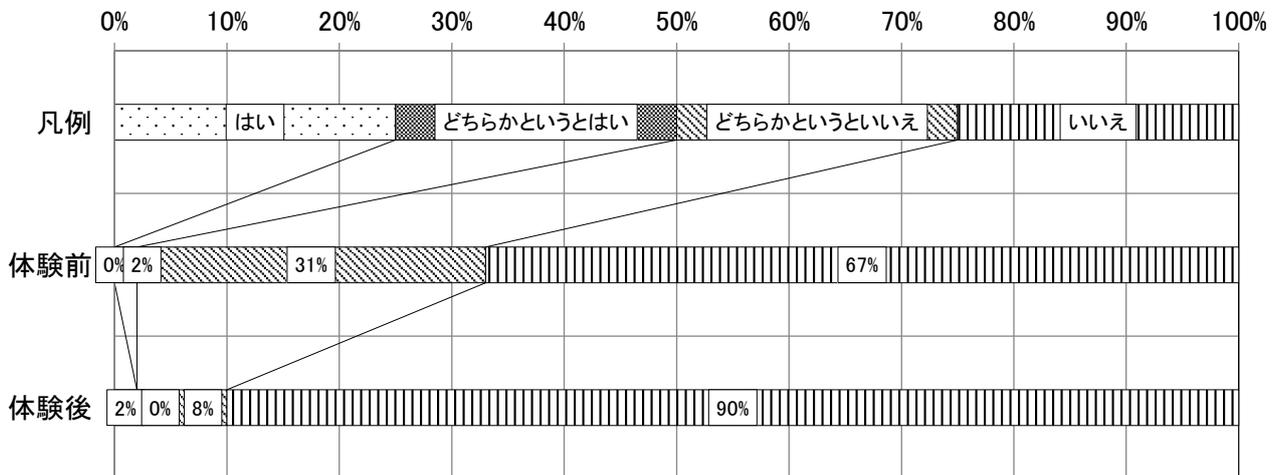
9. 認知症のある人が一人での外出を望んでも外出できないように施設するしか方法がない



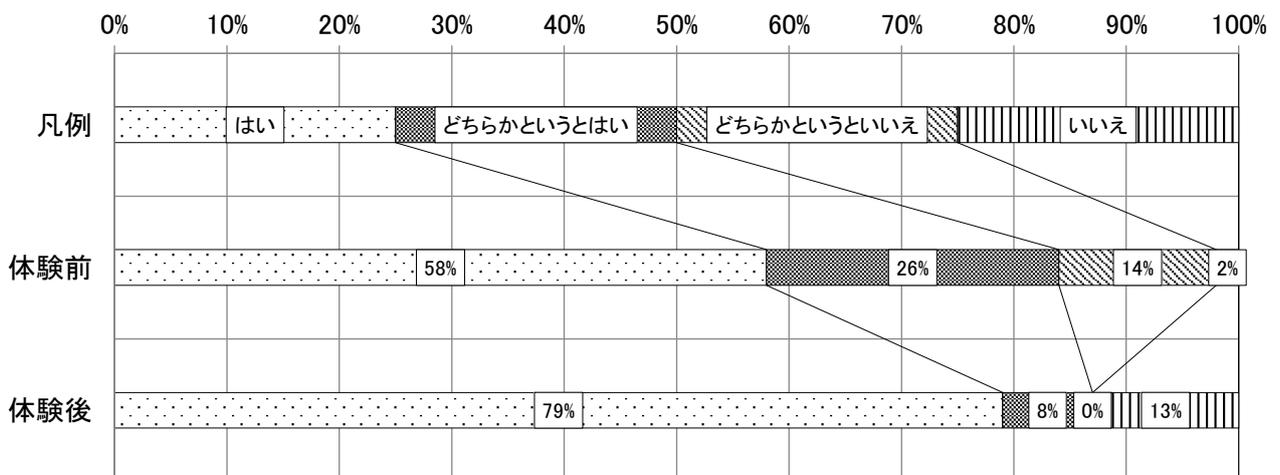
10. 認知症になると何も出来なくなってしまうので全てにおいて代わりにやってあげるのがよい



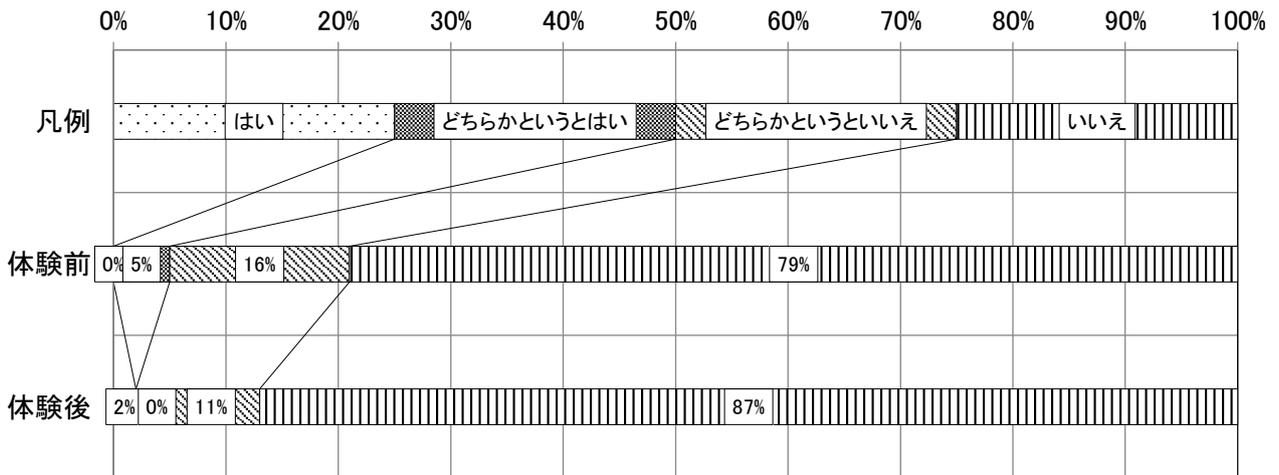
11. 認知症の症状がひどい場合は、薬を増やすしかない



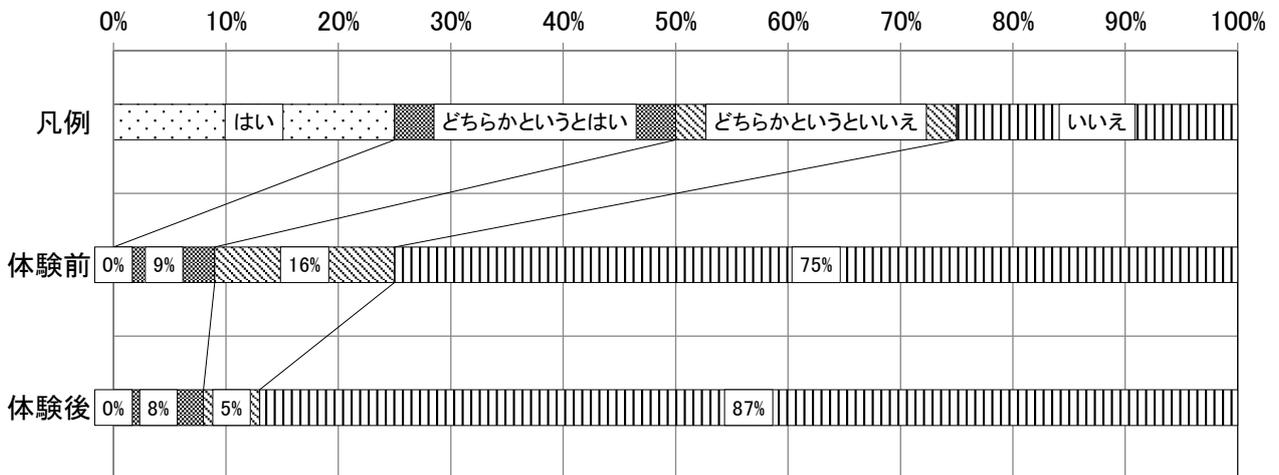
12. 認知症のある人が暮らす環境や周囲との人間関係を改善すると認知症の症状が改善することがある



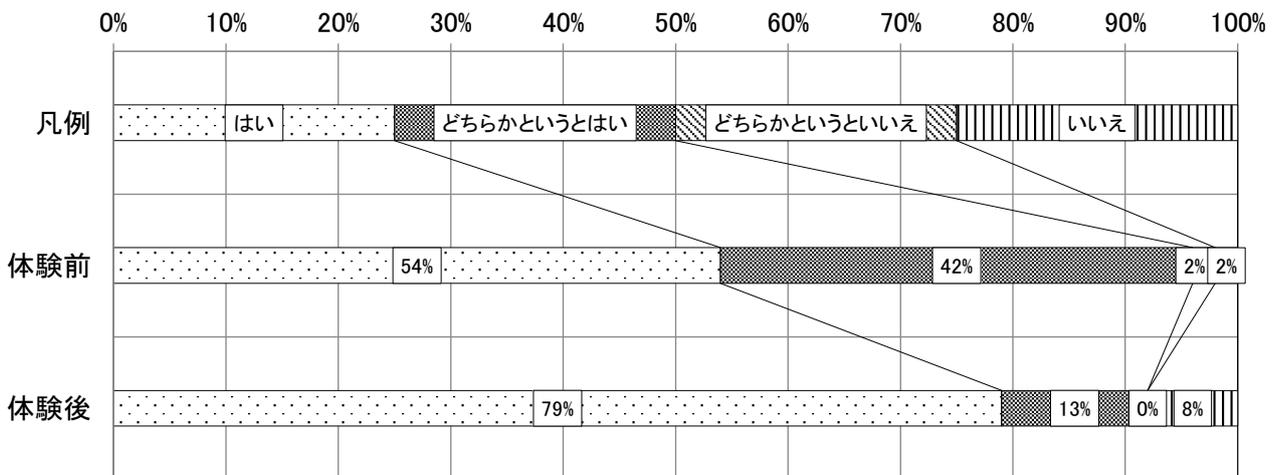
13. 認知症になってしまうと周りに迷惑がかかるので買い物には行かないように説得するしかない



14. 家族が認知症になったら仕事を辞めて介護に専念するしかない



15. 認知症のある方が困っていたら、積極的に声をかけたり助けようと思う



16. 自由記述

■よかった点

1. “体験したことがないから分からない。”本当にその通りだと思いました。安心してもらおうと思って使う「大丈夫」も笑顔も、認知症の方にとっては全く大丈夫でなくて、さらに不安にさせてしまうこともあると知りました。貴重な体験をありがとうございました。
2. 認知症について学校で勉強してきたけど、VRで実際に見て、こんなにこわい思いとか、不安をかかえているんだと学んだ。その人が今どういう気持ちなのかを聴いてあげることが安心につながるのだとわかった。
3. 「大丈夫」という言葉を使うことを介護実習中に悩んでしまい、どう声をかけたらいいいのか、わからなかったことがありました。VRを通して感じたことを活かして言葉を探しながら本人の気持ちに立てる介護福祉士になりたいと思った。
4. とても学ぶことがたくさんありました。私は行政で保健師の立場で携わっていますが、異動もいつかあるのが現実です。ですが、子どもたちも含め、個人として地域でできることをやり続けようと思っています。自分が住みたい地域にするために。
5. 普段経験できない“認知症のある方の視点”を自分の目で経験できた。
6. プログラムやシルバーウッドの方の話を聞いて、今後の自分に活かしたいと思うことがたくさんあった。気づかされた。
7. 自分の体験したことのない体験をすることができました。不安や悩みなど「その人」の思うことが見えた気がしました。「その人」を理解し受け止める環境が大切だと思いました。
8. 認知症の方の視点で感じることができ、とてもよかった。業務をするにあたって利用者様への声かけが少しでも変えられると思った。
9. 認知症に対しての見方、捉え方が変わった。なぜイヤなのか？なぜ落ち着かないのかが理解できた。認知症により→（本人）が恐怖と感じたり不安を感じたりしていることを少しでも取り除き一緒に笑うことができればよいなと思いました。
10. VRの体験は初めてでした。1話目は立ってしたのでとても体感がありました。ご本人の話を開けたこともとてもよかった。講師の黒田さんのプレゼンも良かったです。
11. 見る体験をするということが大切だと身にしみました。銀木犀さんの取り組みにも興味がわきました。
12. 主観的に体験できた。
13. 客観性だけを求めてはいけないことを知った。
14. VRを通じて、より認知症の症状を視覚・聴覚に感じることで認知症の利用者の気持ちになることができた。
15. 今まで想像でしかなかったことを体験できてとても良かったです。想像していたことは違っていたことも多く、体験会に他の人にも参加してもらいたいと思いました。
16. VR体験をずっとしてみたかったので、今回参加できて良かったです。認知症の本を見て書いてある内容だけの理解では不十分で実際に体験でき心が動かされました。ありがとうございました。
17. 想像と体験は別世界でした。今後の認知症の方との関わりにとっても役に立つ講座でした。
18. 認知症の方のしている世界をリアルに知ることができて貴重な体験でした。職場で活かしていきたいです。
19. とにかく感動しました。教科書や先生から学んではいても、やはり体験してみないとその方の気持ちに寄り添えないということがよくわかりました。今後の仕事、入居者様との生活に活かしていこうと思います。
20. ご本人の気持ち視点に立つことが出来るのではないかと思います。大切なことに気付かされたと思います。
21. 当事者の声も反映されていてよかったと思います。
22. 認知症について知っているつもりでいる人が多いのでは？と思いました。
23. シルバーウッド・黒田麻衣子さんの取り組み、考え方を聞かせていただき、本当に素晴らしいと思いました。仙台の大学への講座に一度来ていただきたいと思います。→学部へ提案したいです。
24. 実際に体験することで理解できることに加え、寄り添える気になれた。
25. VRで気付くことは再認識につながった。あくまでも再現、これから実際に当事者がみている景色や風景を見て感じる事ができればいいと思います。
26. レビー小体型認知症の幻視を体験できたこと。
27. 関東ではVRの認知症体験会を多く取り入れているが、たぶん宮城では初めてだと思いますが、費

用が無料なので、身近に認知症の体験ができたのはよかったです。本日はありがとうございました。初心に返れ、思いやりの大切さも学びました。心温まる研修でした。

28. 普段、経験できないことをでき、とても楽しかったです。視覚・体感で共感していくことができれば理解度はもっと広がっていくと思う。講師の話がわかりやすくてよかったです。
29. 認知症のVRで疑似体験できてよかったです。
30. 初めて認知症を体験して、今までなら無意識に認知症の方を傷付けてしまっていたかもしれないことを直せるようになったと思う。
31. 改めて再確認できた。
32. VR体験など初めて知りました。自分が思っている、考えているケアの仕方をもう一度しっかり見直し、学んだことを活かし仕事に役立てていきたいと思います。

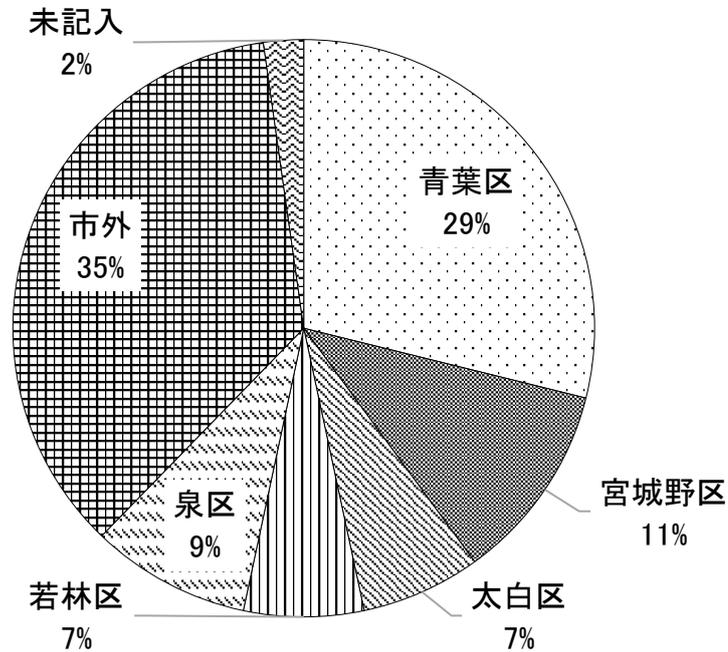
■その他の感想・意見

1. ボリューム大きすぎるなと思ったものあり、調節の仕方がわかるとよかった。
2. 1回何十万円もかかると聞いています。行政での次年度予算は10月にはほぼ決まります。開催(参加)時期が上半期だとよかったな・・・と。
3. VRが重かった。
4. 席が狭い。
5. もっと介護度のひどい方に接する体験もお願いしたい。
6. もっとこういった研修会が増えてもらえばいいのになぁと思いました。
7. 実際に認知症の方のお話も聞いてみたいなぁと思いました。
8. VRの振り返りはグループワークの方が、より自分に入ってくると思いました。記入している間に講話になると気がそれるので、VR→グループワーク→VR→グループワーク→まとめだったら、私にとってはよかったです。
9. VR体験をたくさんの人にしてほしいです。
10. もっと多くの人数に参加してほしい。
11. スクリーンにあった資料がほしかったです。
12. 研修の時間が少ないので、もう少し長い時間の研修をしてもらいたい。
13. VRの視聴、色々なパターンで作っていただけるとよいと思う。
14. 終始早口で“良さ”をかみしめられません。「伝わる」を。

【公開講座】全体アンケート調査集計結果

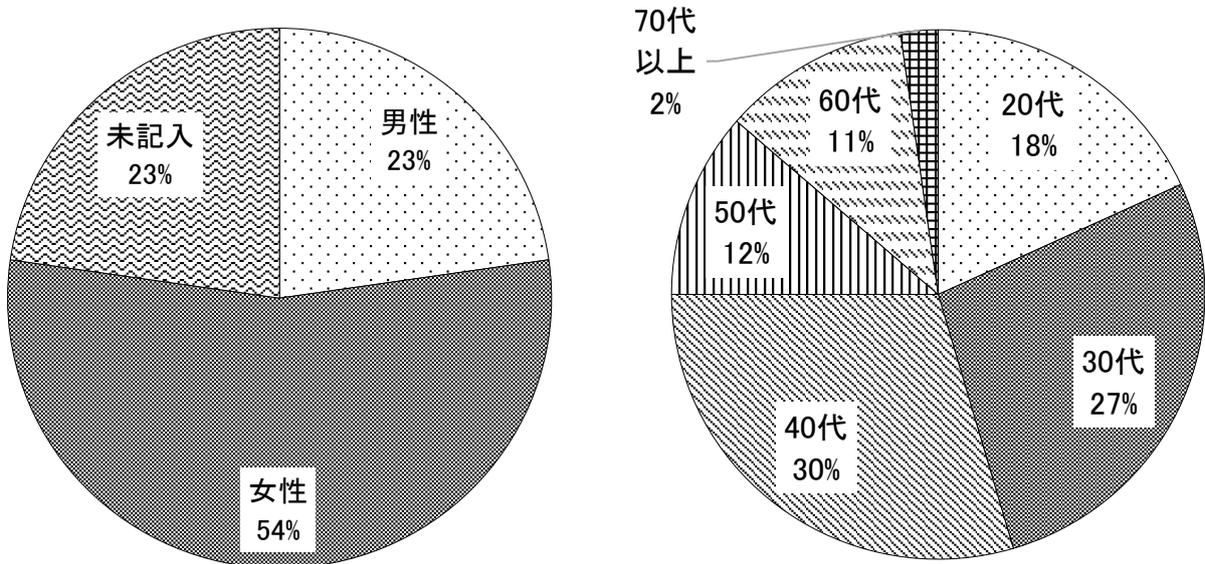
アンケート調査対象者：44名（回収率：100%）

1. 居住地

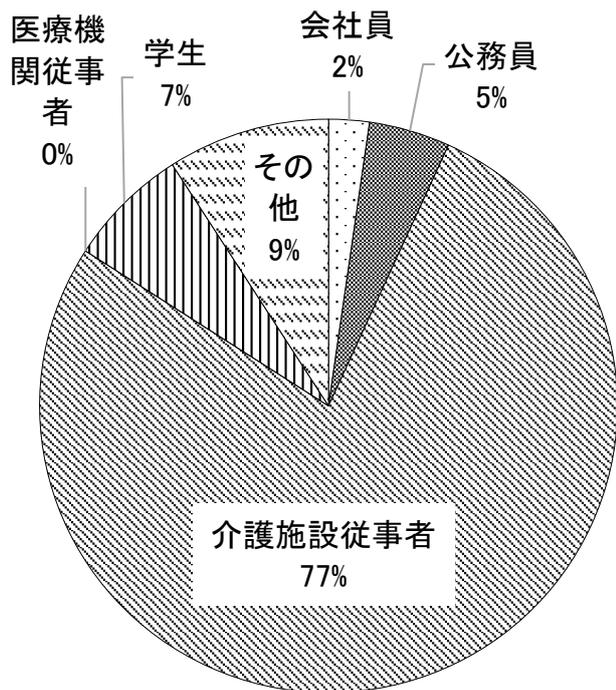


市外：岩沼市・富谷市・多賀城市・石巻市・白石市・利府町・松島町・美里町・柴田町・丸森町

2. 性別と年齢（年代）

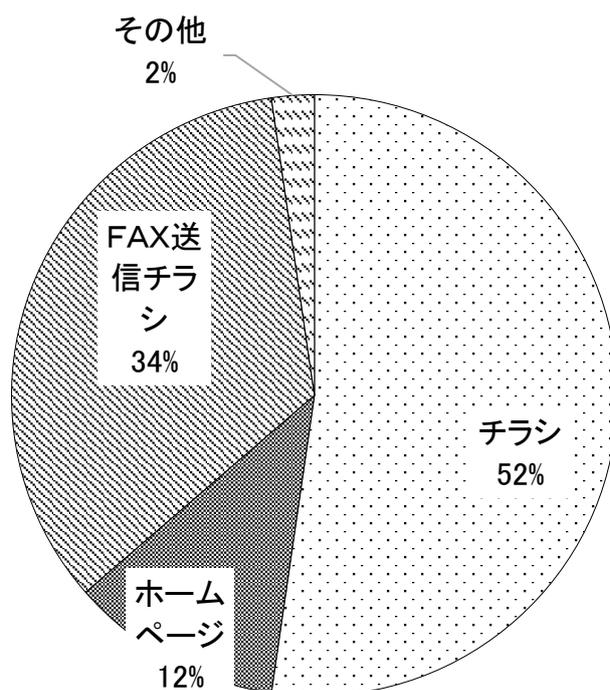


3. 職業



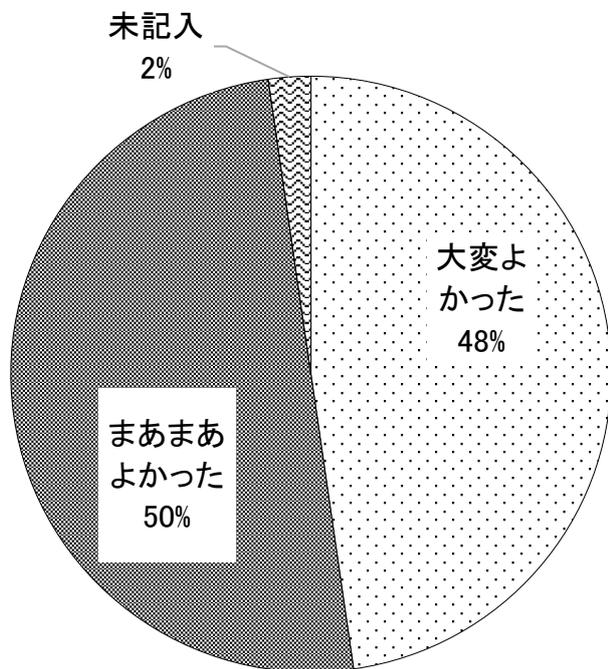
その他：主婦

4. 情報の入手ルート

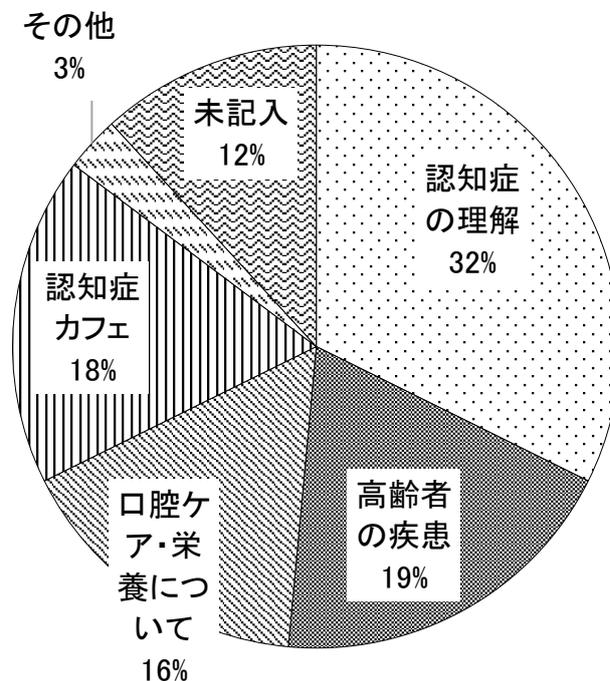


その他：友人・宮城県社会福祉協議会
勤務先の会社・ネットサーフィン

5. 研修会の感想



6. 研修会に対する今後の希望



その他

- 1) 介護施設職員同士の交流の場
- 2) 介護離職した人に対する仕事の場の提供
介護家族だからできる「仕事」があると
いいな！

7. その他の意見・感想（自由記述）

- 1) 非常に良い研修でした。
- 2) カフェには、数回お伺いしています。
この後、お世話になることがあるかもしれません。こういうカフェがあるということを知っておくことが大切と思っています。
- 3) ありがとうございます。
- 4) 法人以外でも人材育成は課題だと思うので、公開講座は続けて欲しいです。
- 5) この体験を日常の業務に活かしていきたいと思います。
- 6) 介護人材不足が問題となっているので、何かそこに繋がる高校や福祉系以外の学校教員の理解が広まる取り組みをしたいです。
- 7) 高校生・大学生がたくさん参加して欲しいです。
参加対象に明記して欲しい。（誘いやすい・周知しやすい）
介護系は避ける進路指導をしているとか、残念な声を聞くので。
- 8) 認知症カフェ紹介3か所について、スライド資料は写真もよいが、基本的な情報のスライドがあるとよかったです。開催頻度、時間、流れ、場所などのスライドがあるとよかったです。（もしくはチラシなど）

本研修事業のまとめ

我が国の認知症高齢者数は2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが推計されており、国においても「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）」を策定し、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。

しかし、現在の一般社会においては、認知症に対する正しい理解や、その支え方が十分普及しているとは言えず、認知症の当事者への偏見や誤解のほか、認知症について触れる機会がまだまだ少ない社会であることから、他人事としての認識等が存在している事実があると考えています。

そのような背景から、本研修事業では、医療・介護の従事者のみを研修参加の対象とすることなく、研修対象者を限定せずに研修会を開催し、誰もが認知症への正しい理解をもち、認知症の人や介護をする家族等の気持ちを理解することにより、「認知症を知り地域の中で支える」ことの重要性を普及・啓発することを目的として開催しました。このような経緯からも、研修事業「VR認知症体験セミナー～認知症を知り地域で支える～」は、研修名を「VR認知症体験会 with 認知症カフェ取組事例紹介」とし、内容をわかりやすくした研修会として実施しました。

研修会はVR（バーチャル・リアリティ）を体験できる機材の都合上、定員50名での開催でしたが、介護サービス従事者、主婦等の地域住民、行政職員、学生等の幅広い対象から定員を大幅に上回る申し込みがあり、当法人が研修事業を企画した当初の段階よりも、認知症当事者の気持ちを理解しようとする人々は多く、幅広い層でその意志が高まっていることが確認できました。

このような状況は、国が目指している「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」に、また一歩近づいているというこの表れでもあり、国が目指す社会の実現に向けた大きな可能性を秘めていると感じるものでもありました。

本研修では、現時点における最新鋭の機材を用いた認知症の疑似体験と、認知症カフェ開催が定着した取組事例紹介でしたが、このような場面に触れる機会は、まだまだごく一部に限られるのが実態です。我々「社会福祉法人東北福祉会」は、これからも認知症の人やその家族、介護サービス従事者、認知症の人を支える地域の方々等が、認知症に関する理解をさらに深めることができる場の企画・提供と、より一層ともに支え合える地域づくりを増進できるよう、認知症に関する普及・啓発の活動を継続していかねばならないと考えています。

最後に「VR認知症体験会 with 認知症カフェ取組事例紹介」の開催にご協力いただいた「株式会社シルバーウッド」並びに「学校法人梅檀学園東北福祉大学」の皆様は、この場を借りて深謝申し上げます。

また、研修における認知症カフェ取組事例紹介の実践報告及び運営に協力された当法人職員と、本研修の企画・運営を行った人財育成・定着検討委員会の皆さんに、心から御礼を申し上げます。

平成30(2018)年12月

社会福祉法人東北福祉会 人財育成・定着検討委員会
委員長 松本 久

(公財)日本社会福祉弘済会 助成事業

バーチャル・リアリティ

VR認知症体験会

With 認知症カフェ 取組事例紹介

参加費【無料】 定員【先着50名】

平成30年

11月24日(土) 13:30～16:10

東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス6階 62教室

VR認知症プロジェクト
～認知症の一人称体験～

講師：(株)シルバーウッド

VR(バーチャル・リアリティ)を利用して、「認知症」と認知症の「人」を正しく理解することを目的としています。

お申込方法【東北福祉会「法人本部事務局」あて】

「認知症」を知りたい方は、どなたでも参加できます。参加者の「お名前」「事業所名」「連絡先(電話番号等)」を、以下いずれかの方法でお知らせください。定員に達した場合は、事務局からご連絡いたします。

- 電話 (022) 303-0086
- FAX (022) 208-7600
- 電子メール infovr2018@gmail.com

※取得した個人情報は厳重に管理し本事業以外には使用しません。



会場に駐車場はありません

会場：仙台市宮城野区榴岡2丁目5-26

- JR仙台駅東口 徒歩3分
- 地下鉄東西線 宮城野通駅 徒歩3分

主催：社会福祉法人 東北福祉会 <https://www.sendan.or.jp> 共催：東北福祉大学

「電話」や「電子メール」でお申込みの場合も、以下の内容をご連絡ください

送信先 F A X 番号 (022)208-7600

参加申込書

	内容	
参加者 全員の お名前	様	様
	様	様
	様	様
	様	様
	(欄が足りない場合は、以下余白などにご記入ください)	
所属する 事業所名	(一般の方は記載不要です)	
参加者 (代表)の 連絡先	(連絡を受けやすい電話番号またはFAX番号、メールアドレス) 参加(代表)者名 _____ 連絡先 _____	

※ご提出いただいた個人情報、当法人が厳重に管理し、本事業以外には使用しません。

●お申込み方法にかかわらず、以下の点にご注意ください。

1. 次の場合は、できるだけ早くお知らせください。
 - ◆お申込み後に「キャンセル」する場合
 - ◆お申込み後に参加者が「変わる・減る」場合
2. お申込みいただいて定員に達していた場合
ご希望により「キャンセル待ち」とすることができます。
 - ◆空きが出たとき、キャンセル待ちの受付順に、ご連絡いたします。
 - ◆前日(11月23日)までに連絡がない場合は、参加できませんので、ご了承ください。

バーチャル・リアリティ VR



思わず歓声が上がります♪

認知症体験会

With 認知症カフェ 取組事例紹介

東北福祉会【新任職員研修】から

13:30 オリエンテーション
13:40 認知症カフェ取組事例紹介
社会福祉法人東北福祉会
○せんだんの杜・里・館
14:15 (休憩)
14:30 VR認知症体験会
○(株)シルバード
16:10 終了

プログラム

平成30年11月24日 (土) 13時30分～16時10分 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

(公財) 日本社会福祉弘済会助成事業 主催：社会福祉法人 東北福祉会 <https://www.sendan.or.jp> 共催：東北福祉大学

■下記あてはまるものに○をつけてください

	VR体験前の 考えを教えてください	VR体験後の 考えを教えてください
11. 認知症の症状がひどい場合は、薬を増やすしかない	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ
12. 認知症のある人が暮らす環境や周囲との人間関係を改善すると認知症の症状が改善することがある	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ
13. 認知症になってしまうと周りに迷惑がかかるので買い物には行かないように説得するしかない	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ
14. 家族が認知症になったら仕事を辞めて介護に専念するしかない	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ
15. 認知症のある方が困っていたら、積極的に声をかけたり助けようと思う	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ	はい どちらかという どちらかという いいえ はい いいえ

■本日の満足度を教えてください。

1. 大変満足 2. 満足 3. やや不満足 4. 大変不満足

■VRの視聴によって、認知症の方への理解が進んだと感じますか？

1. 感じる 2. どちらかというと感じる 3. どちらかと感じない 4. 感じない

■VRの視聴によって認知症のある方の介護の際に感じる心理的負担が和らぐ（和らぐだろう）と感じますか？

1. 感じる 2. どちらかというと感じる 3. どちらかと感じない 4. 感じない

■VR認知症体験プログラムを他の方にも進めたいと思いますか？

1. はい 2. いいえ

■本日の感想をお聞かせください

良かった点
要望・今後の改善点

以上ですご協力ありがとうございました

平成30年度社会福祉法人東北福祉会公開講座
「VR認知症体験会with認知症カフェ 取組事例紹介」アンケート

本日は、平成30年度社会福祉法人東北福祉会公開講座「VR認知症体験会with認知症カフェ 取組事例紹介」に来場いただき、ありがとうございました。今後の、研修等の運営の参考にさせていただきたいと思っておりますので、お手数ですが下記のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

あてはまる項目に○を付けるか、又はご記入ください。

1 あなたのお住まいはどちらですか。

青葉区 宮城野区 太白区 若林区 泉区 市外（ ）

2 あなたの性別と年齢（年代）をお答えください。

性別： 男性 女性

年代： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

3 あなたのご職業をお答えください。

ア 会社員 イ 公務員 ウ 介護施設従事者

エ 医療機関従事者 オ 学生 カ その他（ ）

4 本日の公開講座について、何でお知りになりましたか。

ア チラシ イ ホームページ

ウ FAX送信チラシ エ その他（ ）

5 公開講座（認知症カフェ）の内容はいかがでしたか。

ア 大変よかった イ まあまあよかった

ウ あまりよくなかった エ よくなかった

6 参加してみたい講座等がありますか。

ア 認知症の理解について イ 高齢者の疾患について

ウ 口腔ケア・栄養について エ 認知症カフェ

オ 人材育成（OJTなど） カ その他（ ）

7 その他、ご意見、ご感想がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

VRで認知症を疑似体験「列車で自分の現在地不明に」「居間に不審者の幻視」当事者の不安学ぶ

バーチャルリアリティ（VR＝仮想現実）の端末を使い認知症を疑似体験するイベントが、仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパスであった。宮城県内から福祉施設職員や学生約50人が参加し、認知症当事者の視点に立った支援について理解を深めた。

イベント「VR認知症体験会」は、市内で特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人東北福祉会（青葉区）が11月24日に開いた。

VR体験の講師は、首都圏でサービス付き高齢者向け住宅を展開する企業「シルバーウッド」（東京）の黒田麻衣子さんが務めた。

黒田さんは、同社が認知症の人の意見を聞きながら制作した4本の映像を紹介。参加者はゴーグル型の端末とヘッドホンを着け、「列車内で自分の現在地が分からなくなる」「居間に不審者が出現したり消えたりする」など、認知症の人が陥りやすい状況を表現したストーリーを視聴した。

介護福祉士を目指す東北福祉大総合福祉学部4年山田まやさん（21）＝青葉区＝は「大学の実習で、これまでも認知症の人と関わる機会はあったが、あらためて当事者の不安な気持ちを知ることができた」と話した。

同じく4年阿部桃子さん（22）＝白石市＝は「幻視をととてもリアルに体験できた。今後、当事者に会ったら今日のことを思い出してサポートしたい」と語った。

黒田さんは「認知症は怖いという印象が全国に広がっている。実際、症状は人によってかなり異なるが、体験を通し少しでも理解が進めばいい」と述べた。

東北福祉会の福祉施設が、市内各地で地域団体と連携し定期開催する認知症カフェの事例報告もあった。



360度が見渡せるVR端末を着けて、認知症の人が陥りやすい状況を疑似体験する参加者たち

拡大写真

関連ページ: [宮城](#) [社会](#)

2018年12月01日土曜日

社会福祉法人東北福祉会「人財育成・定着検討委員会」

	氏名	所属・職名
委員長	松本 久	せんだんの杜住居支援部・部長
委員	小山 一哉	せんだんの杜ものう高齢福祉部高齢福祉課・課長
委員	佐々木 園恵	せんだんの里・筆頭支援部長
委員	森 毅	せんだんの館生活支援事業部高齢福祉課第一支援係・係長
法人本部	野田 毅	法人本部事務局・次長
担当施設長	舟越 正博	せんだんの里・総合施設長

所属・職名は平成30年12月21日現在

公益財団法人 日本社会福祉弘済会 平成30年度社会福祉助成事業

VR認知症体験セミナー ～認知症を知り地域で支える～ 研修事業報告書

平成30(2018)年12月

発行所 社会福祉法人東北福祉会
〒989-3201
宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149番地1
TEL(代):022-303-0086 FAX(代):022-208-7600
e-mail(代) : t-honbu@sendan.or.jp
URL : <https://www.sendan.or.jp>

発行者 社会福祉法人東北福祉会 人財育成・定着検討委員会
委員長 松本 久

印刷所 株式会社 ホクトコーポレーション
〒989-3124
宮城県仙台市青葉区上愛子字堀切1-13
TEL(代):022-391-5661 FAX(代):022-391-5664
URL : <http://www.hokuto-web.co.jp>